



教育支援センターだより

3月号 令和6年度 第12号
令和7年 3月18日発行(通算180号)

鴻巣市立教育支援センター

〒365-0004 鴻巣市関新田1281番地1
TEL 048-569-3181
FAX 048-569-1773

花かおり
緑あふれ
人輝くまち
こうのす

- 教育相談事業
- 適応指導教室事業
- 特別支援教育事業
- 研修事業
- 家庭地域連携事業



想像力を働かせる

指導主事 池田 祐輔



今年度も、学校訪問や研究発表等において多くの学校で授業を参観させていただきました。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、単元計画を見直し、展開部分で児童生徒の思考を深める手立てが工夫されている授業が多かったです。また、ICTの効果的な活用も図られ、ねらいや児童生徒の実態に応じた活用が促進されていました。

授業を参観する際には、指導案や授業そのものについて考えることが多いですが、併せていろいろなことに思いを馳せることもあります。例えば、実生活とのつながりや課題を、自分のこととして捉えどのように生かしていくかということです。

国語の「想像力のスイッチをいれよう」という教材の授業を参観した後、「想像力」について考える機会がありました。きっかけとなったのは、ベビーカーに関する記事を見かけたことでした。その記事は、「混雑した車内ではベビーカーをたたむ必要があるか、そのまま乗ってもよいか」という内容でした。

鉄道会社は、折りたたまずに乗車することができるとしていますが、快く思わない乗客から舌打ちされたり文句を言われたりしたことがあるという方もいます。確かに、朝の混雑時などピリピリしている車内であれば迷惑に感じてしまうのも無理はないかもしれません。しかし、ここで少し「想像力」を働かせてみると、少し違う気持ちで対応できると思います。

ベビーカーを折りたたんで乗るとなると、荷物を背負い、赤ちゃんを片手に抱っこして、もう一方の手でベビーカーを押さえなくてはなりません。そのため、吊革につかまることができなくなります。赤ちゃんを抱っこした状態で棒立ちの状態は危ないですね。このように「想像力」を働かせることで、「大変だろうな」と思いやりの気持ちを持ち、席を譲るなど実際の行動に移せるのだと思います。ベビーカーを押して乗る場合も、通勤ラッシュの時間帯は避けたいものですし、できるだけ空いている車両に乗りたいたいはずですが、しかし、その時間帯・その車両に乗らざるを得ない理由があるのかもしれないと想像するとどうでしょうか。もしかすると病院の診察の時間に間に合わせるためかもしれません。荷物もたくさんあるのでエレベーター付近の車両にしか乗れなかったのかもしれない。そう思うと、少し協力して場所を広げようとは思えないでしょうか。「想像力」は、「思いやり」にもつながっているといえます。

先日の研修会における講師の先生のお話を伺う中で、「想像力」について、自分の未熟さを反省することがありました。お話は、「児童生徒の暴言や理解できない行動の裏には、不安が隠れていることがある」という内容でした。自分が担任していた頃の児童を思い起こし、「もしかするとあの子ども…」と思いがた子が何人もいました。その頃の自分とは、一人一人に向き合って丁寧に聞き取り、その子が何に困っているかということについて、思いを巡らせることはできませんでした。想像力があればもう少しいろいろな可能性を考え、柔軟に対応することができたかもしれないと思うと、悔やまれてなりません。

しかし、落ち込んでばかりもいられません。これまでの失敗や経験を生かし、「想像力」を働かせて、今の自分にできる支援をしていくことが、児童生徒のためになると信じています。



進級・入学期のソーシャル・スキル



4月から、子どもたちの新しい生活が始まります。初めての友達とも関係を深め充実した毎日を過ごすためには、例えばこんなコミュニケーション・スキルが必要です。

- 自分の気持ちや意見を表現する
- 相手の話を聞く
- わからないことがあったら質問する
- 先生や友達からの質問に答える
- 進んであいさつをする

また、教室の中に居場所を見付けられない等の悩みがある場合、すぐに相談できるのも大切なスキルです。様々なお困りは、学校や当センターへご相談ください。



教育相談担当者及びさわやか相談員等連絡会議 2/21(金)

2月の相談状況 229件

相談内訳	R7. 2月	R7. 1月
相談者来所	92	93
相談員等の学校等への訪問	70	82
電話	67	76

主な相談者別内訳	R7. 2月	R7. 1月
小学生保護者	47	48
年長児保護者	41	24
小学生	39	59
小・中教職員	31	32
未就学児	20	13

主な相談内容	R7. 2月	R7. 1月
不登校	70	96
就学	53	14
特別支援	53	61
性格・行動	33	47

3・4月の行事予定

月	日	曜	行事
3	3	月	Let's教室 卒業を祝う会
	6	木	県公立高校入学許可候補者発表
	11	火	ウイング・ステップ担当者研修会 15:00
	13	木	まなびの教室 14:00
4	18	火	Let's教室 3学期終業式・保護者会
	8	火	小中学校 始業式・入学式
	16	水	Let's教室 1学期始業式 特別支援学級担任等のための研修会
	24	木	第1回まなびの教室 14:00

※予定は、都合により変更になる場合があります。



今年度は、小学校3人、中学校10人の児童生徒が通級しました(見学・体験、仮通級を除く)。



シリーズ 0歳～15歳までの一貫した教育の推進 教室訪問のまとめ

対象	小学校	中学校	訪問回数
新採用	16	8	48
若手	2年次	9	10
	3年次	9	15
臨時的 任期付	1年目	8	17
	2年目	8	16
学校からの要請	1	2	3
合計	51人	26人	109回

【主な成果】

- 年度当初の学校訪問で、学校や教員の大まかな状況を知ることができ、留意して訪問することができた。
- 訪問の度に、管理職から若手育成上の現状と課題を伺った。当該教員の成長の様子や抱えている悩みを詳細かつ的確に把握されており、授業参観とその後の話し合いをするうえで大いに参考になった。
- ICT活用が着実に進んでいることが感じられた。教師が一斉指導の中で電子黒板に教材を提示するだけでなく、個別・協働学習において写真撮影したり、調べたり、考えをまとめたり、表現したりするなど、個々に学習者用端末を操作する活動が自然に設定されていた。
- 4年次教員と他市からの転入教員について、学校からの要請があり教室訪問を実施した。これまでの実践経験を生かしなが、自分なりの課題意識をもったメリハリのある授業が行われていた。
- 学校全体で初任者を育てる体制を整えている所では、確実に若い先生が育っているように思われる。

